

令和2年7月5日～8日の梅雨前線豪雨による 稲葉 ダム洪水調節の効果について

令和2年7月8日

【速報推計】

梅雨前線の影響により、5日16時から雨が降り始め8日0時までに累計459mmの降雨があり、0時54分には洪水量200m³/sに達したため洪水調節を開始しました。

その後も流入量は増加し、8日1時8分には最大流入量の278.1m³/sに達しました。その時点でのダムからの放流量は144.4m³/sであり、ダムに流れ込んだ水量の約48%にあたる、133.7m³/sをダムに貯めました。

その後、降雨及び流入量は次第に減少し、8日1時53分には洪水量の200m³/s以下となり洪水調節を終了しました。

総雨量は、486mm(5日16時～8日1時)で、
最大時間雨量は、48mm/h(8日0時)でした。

今回の洪水調節により、下流河川(竹田橋地点)において、河川水位を約**0.3m**低減させたと推測しています。



問い合わせ先

大分県 土木建築部 河川課 ダム・海岸班
電話 (097)506-4595(直通)

大分県 竹田土木事務所 河川砂防班
電話 (0974)63-2108

令和2年7月5日～8日の梅雨前線豪雨による 稲葉 ダム洪水調節の効果について



【ダムの治水効果】

ダムがないと...

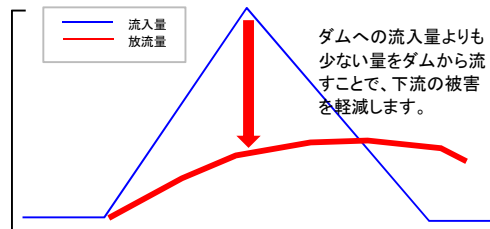
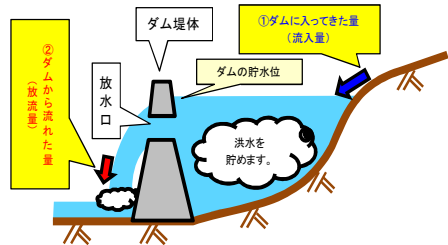


大雨が降ると、川から水があふれてしまいます。

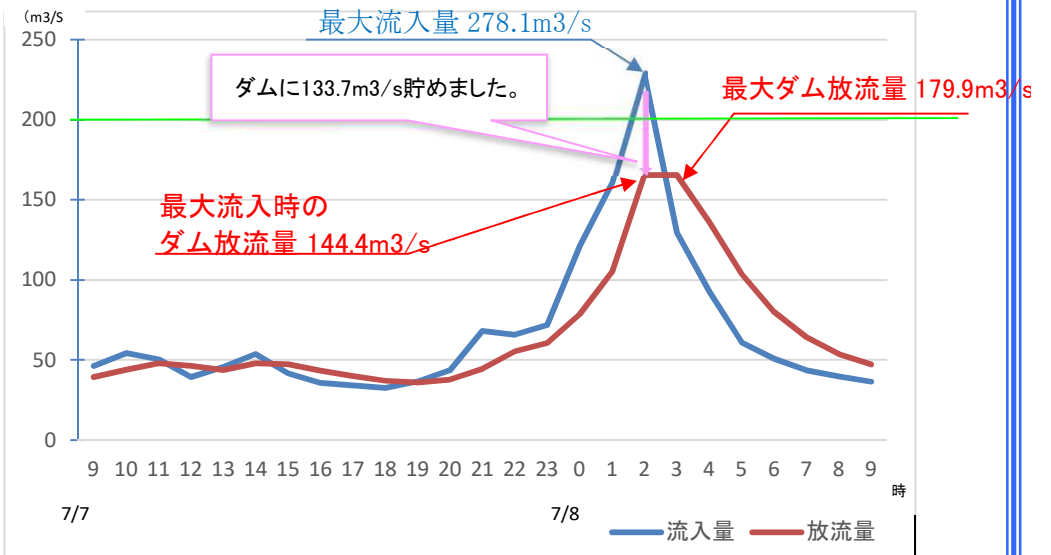
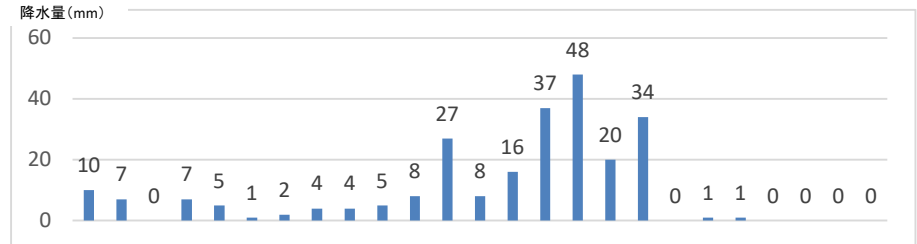
ダムがあると...



大雨で降った雨をダムに貯め、徐々にダムから放流します。



【防災操作実績図(速報値)】



最大流入量 278.1m³/sのうち144.4m³/sを下流に流し、133.7m³/sをダムに貯めました。

令和2年7月5日～8日の梅雨前線豪雨による 稲葉 ダム洪水調節の効果について

【 竹田橋地点の河川水位比較 】

